∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞

一般社団法人 日本放射線看護学会
ニュースレター 第 13 号
2024 年 3 月 31 日 発刊

∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞

【目次】

1. 副理事長からのメッセージ
2. トピックス
3. 各委員会からのお知らせ
 1）学術推進委員会
 2）編集委員会
 3）広報・渉外委員会
 4）国際交流委員会
4. 第 13 回の学術集会のご案内

1. 副理事長からのメッセージ

一般社団法人日本放射線看護学会
副理事長　野戸結花

今年度の総会で副理事長を拝命いたしました。太田理事長はじめ、理事および幹事の先生方とともに、当学会の運営に力を尽くしたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

年明け早々に発生した能登半島地震により被害に遭われた皆さまには、心からのお見舞いを申し上げます。そして、ご家族や大切な方々を亡くされた皆さまに、謹んでお悔やみを申し上げます。この地震では、能登半島の志賀市にある志賀原子力発電所においても軽微なトラブルが生じたとの報道があり、一時はヒヤリとさせられましたが、安全上の問題はなかったとのことで、本当に安堵いたしました。被災者の皆さま方が一日も早く安全で平穏な生活に戻られますことを、心よりお祈り申し上げます。

さて、本学会の会員は1月10日時点で367名となりました。大規模の学会とは言えませんが、放射線看護や教育に従事し、学術基盤を求める臨床や教育現場の方々のニーズに応える数少ない、全国規模の学会として、着実に歩みを進めております。年一回開催の学術集会は今年度で12回を数え、2013年度創刊の学術誌は2020年度より年二回の発刊となり、今年度は11巻まで漕ぎつけています。また、「放射線診療（業務）従事者の指定に関するガイドライン」や「看護職のための眼の水晶体の放射線被ばく防護ガイドライン」など、放射線診療の最前線で活躍をされている看護職者の皆さま方の安全管理と安心を担保すべく、放射線防護の在り方について提言をしております。さらには、放射線看護の教育への貢献として、2種類（1単位15時間版、2コマ短縮版）の「放射線看護教育モデルシラバス」を提案させて頂いております。放射線診療はほぼ全ての診療科で行われることから、放射線や放射線防護の知識は全ての看護職者に必要です。放射線看護の中枢にいる学会員の皆さまは、スタッフへの放射線看護教育を期待される立場である場合も多いかと思います。「放射線看護モデルシラバス」自体は看護系大学の学生を対象とした教育ですが、その内容は、一部、現職者への教育にも応用できると考えます。この機会に改めて学会ホームページを覗いてみて頂ければ幸いです。また、ホームページには、「お知らせ」として各種研修会や学習会、研究助成事業のご案内を随時行っております。

学会員の方々は、様々なお立場と期待で本学会に参加をされていることと思います。ご存知のように、本学会では「放射線診療を受ける対象者の看護」と「放射線事故・災害時の看護」の2つの柱をもつものとして放射線看護をとらえております。放射線診療を受ける対象者の看護としては、先達の諸学会や研究会と比べ、放射線治療、特に外部照射を受ける患者の有害事象のケアのエビデンス等に関する情報が少ないというご指摘も頂くことがあります。本学会としては、放射線の人体影響の視点から個別の看護を考えるとともに、患者・家族の医療被ばくの低減、放射線診療に従事する看護職者の職業被ばく低減と放射線防護に関する

取り組み、放射線被ばくへの不安の軽減等も深化させていく必要があると考えております。また、私が所属する教育機関で、昨年度はルテチウム177による神経内分泌治療と看護、一昨年はホウ素中性子捕捉療法に関するセミナーを開催しましたが、このような最新の治療と看護について、多くの看護職者が高い関心を持って参加し、時間内にはお答えしきれないほどのご質問を頂戴したことを考えると、発展を続ける放射線診療に呼応して、最新の情報と看護に役立つエビデンスを発信していくことも、本学会の課題と考えております。

一方、福島原子力発電所事故から13年が経過し、「復興」が前面に立ち、被災者の方々の生活に焦点が当たる機会は極端に減少している印象を受けます。ふるさとを失い今生では帰還の道が閉ざされた、戻ることができたとしても以前とは様変わりした「ふるさと」に居を構え違和感と共に暮らすなど、あいまいな喪失を抱えて生きる人々、周囲の理解が進んだとはいえ、心底にスティグマを抱えている人々など、中長期にはその時期に特有の課題もあります。事故への備えや静穏期の放射線リスクコミュニケーション、スタッフ教育と同時に、事故後の長期的な関わりにも目を向け続けることが必要だと感じます。本学会では、被ばく医療看護を専門に学んだ看護職者を中心に、放射線事故・災害において中長期的な視点で活動できる NuHAT（Nuclear disaster Health Assistance Team、呼称：ニューハット）という原子力災害支援保健チームの構築と人材育成にも尽力しています。このニュースレターのトピックスとして詳細を紹介していますので、ご確認いただければと思います。

昨年度に誕生した放射線看護専門看護師ですが、今年度は新たに3名が認定審査に合格し、現在は6名が活動しています。産声を上げたばかりの放射線看護専門看護師の専門性の明確化・言語化とともに、社会認知を進めていくことも本学会の課題のひとつです。また、質の高い放射線看護が多くの看護職者の手で行われるようになるためには、先行するがん放射線療法看護認定看護師やインターベンションエキスパートナース、核医学診療看護師、被ばく医療看護を専門に学んだ方々をはじめ、臨床現場で日々、対象者と向き合い、丁寧な看護を展開されている看護師の皆さま方と手を携え、放射線看護の知の集約をしていくことが必要と考えております。

会員の皆さま方のお力添えを頂きながら、課題解決に向け、着実な一歩を踏み出していきたいと思っております。今後ともご支援をよろしくお願い申し上げます。

2. トピックス

NuHAT のご紹介

一般社団法人日本放射線看護学会
理事　堀田昇吾

これまでにも本学会学術集会 [1]や関連団体の機関誌 [2]で何度かご紹介させていただきましたが、改めて原子力災害支援保健チーム（Nuclear disaster Health Assistance Team）（以下、NuHAT という）」のご紹介をさせていただきます。

2011 年の東京電力福島第一原子力発電所の事故（以下、F1 事故という）時には、住民の放射線に関する不安等に対応するために、行政や多くの専門家により、科学的なエビデンスとしての「放射線リスク」についての説明は繰り返し行われてきました。しかし、住民が放射線リスクを理解・認識し、リスクの受容を自ら判断する段階までには至っておらず、行政・専門家と住民との間に溝が生じ、その状態が現在も続いております。この状況を打開するためには、放射線・原子力災害時に、住民と、直接、向き合い、放射線の健康リスクに対する不安・相談等に対応するチームが必要です。

医療保健の専門職である看護職は、患者さんや地域の住民の皆さんの最も身近な存在として

日頃の健康保持・増進を支える存在です。そのため、F1 事故時も地域住民の方々の放射線に関する不安などに対応できれば良かったですが、看護職は原子力開発・原子力災害への関心が低かったことや原子力・放射線に関する基本的な知識や技術が不足していたことなどから、F 1 事故では放射線の視点に立った組織的な活動を行うことができませんでした。そのため、放射線・原子力災害時に対応できる看護職のチームである NuHAT を構築することとしました。NuHAT の構築にあたっては、令和 3 年度に原子力規制庁からの委託研究として「看護職を活用した住民に対する放射線リスクマネジメントの推進-原子力災害支援保健チーム（NuHAT）の実現を目指して-」(主任研究者：明石眞言)を行いました。この委託研究の中で、既存の災害支援組織や原発立地道府県の自治体へのインタビューを行い、放射線・原子力災害の急性期だけでなく、中長期的な支援のニーズがあることや平時から介入していく必要性があることがわかりました。また、同研究では、放射線・原子力災害時に、住民と放射線の健康リスクに対する不安・相談等に対応するためには、住民の生活に根ざした対話が肝要であることから、放射線リスクについて専門的な教育を受けている看護師、または日頃から地域住民の健康を支えている保健師・助産師が NuHAT のメンバーとして適任であると考えました。そのため、NuHAT メンバーは、放射線に関する専門性を強化した放射線看護に関する CNS の養成教育課程修了者、および大学院で教育を受けた保健師・助産師としました。

NuHAT の役割は、地域住民に対する放射線リスクマネジメントに関する活動であり、具体的には住民への放射線に関する個別の相談、住民を対象にした研修会などの企画・実施を想定しています。また、必要に応じて、平時には病院スタッフへの放射線・原子力災害に関する研修の企画・実施など大きな役割になると考えています。

いつ発生するかわからない災害に備えて、平時から持続的に活動していくことが NuHAT には求められると思います。そのためには、本学会は、NuHAT のメンバーとして活躍していただく方々と連携・協働してチームを作っていくことを目指し、事務的な準備と並行して、メンバーの皆さんと研修などを企画していくとともに、原発立地道府県またはその近隣の自治体における総合防災訓練へ参加させていただくなどの活動をしていきたいと考えています。

1) 堀田昇吾ら(2022)住民支援のための看護職で構成する「原子力災害保健支援チーム（NuHAT)」に関する検討. 日本放射線看護学会第 11 回学術集会.2022 年 9 月 17-18 日. 東京.
2) 堀田昇吾，草間朋子(2023). 原子力災害支援保健チーム（NuHAT）の紹介. Isotope News [No789] 2023 年 10 月号.

3. 各委員会からのお知らせ

1）学術推進委員会

≪委員会概要≫

学術推進委員会は一般社団法人日本放射線看護学会の学術推進を目的とした活動として、関連学会及び団体との連携強化に関する活動、ならびに学会および学術集会の活性化・学術推進活動を行っています。

≪委員≫

委員長：野戸結花

委員：太田勝正、佐藤美佳、小山内暢、
堀田昇吾

≪活動報告≫

2023 年度は次の活動を行いました。

1.学会および学術集会の活性化・学術推進活動

第 12 回学術集会において、交流集会を開催しました。

放射線看護モデルシラバスの活用に向けて－モデル授業その 4　放射線の医療利用と放射線防護・放射線防護における看護職の役割－

学術推進委員会では、文部科学省が策定した「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」を受け、放射線看護モデルシラバスを 1 単位版と 2 コマ版で作成し、2019 年 4 月より本学会ウェブサイト上で公開しています(http://www.rnsj.jp/guidelines-publications/model-core-curriculum/)。

当委員会では、モデルシラバスの活用を促進するために、日本放射線看護学会第 9 回学術集会の交流集会から、継続してモデル授業を紹介しています。今年度の第 12 回学術集会では、モデル授業・その 4 として「放射線の医療利用と放射線防護・放射線防護における看護職の役割」について、本学会の理事で当委員会委員でもある、東京医療保健大学・堀田昇吾先生に御講義いただきました。

モデル授業では、実際に行っている講義の内容として、放射線防護の 3 原則（正当化、防護の最適化、線量限度）、被ばくの区分、外部被ばくに対する防護、医療スタッフの被ばく線量、個人モニタなどについてお話いただきました。放射線防護の 3 原則の 1 つである「正当化」に関しては、メリットやデメリットを学生に挙げてもらいながら授業を進めているとのことで、大学教育としての意義が大きいと感じました。また、看護学生が放射線に対してどのようなイメージを抱いているのかを講義の前後でクイズによって把握されており、学生の背景を知ったり教育効果をはかったりする上で効果的な方法であると思いました。外部被ばく防護の原則にある「距離」や「遮へい」については、測定実験を通じて教授されており、その際には、グラフ作成による「見える化」を意識されているという点も印象的でした。

本交流集会には 35 名の方に参加いただき、会場はいっぱいとなりました。交流集会後に実施したアンケートでは、放射線看護専門看護師やがん放射線療法看護認定看護師の方を含む 28 名に回答をいただきました。「とても興味がわいた」という声や、講義を実際に行っているという方からの「すごく参考になった」というコメントがありました。また、モデルシラバスに関する交流集会の継続的な開催が望まれている様子もうかがえました。このように、高等教育の場で実際に放射線看護教育に携わっている方の模擬授業を拝聴し、効果的な教育展開について参加の皆さんと一緒に考えることができました。

学術推進委員会では引き続きモデルシラバスの普及に向けて取り組んで参ります。

2.　「看護職のための眼の水晶体の放射線防護ガイドライン」普及のための活動

(1)広報用チラシの郵送

本学会では、2021 年 4 月の法令改正に向けて、「看護職の眼の水晶体の放射線防護ガイドライン」を本学会ホームページに公表しています。今年度は、普及のための広報用チラシを広

報・渉外委員会との協働で 400～499 床の病院 301 施設に郵送しました。

(2)第 12 回学術集会での相談会開催

第 12 回学術集会にて「看護職のための眼の水晶体の放射線防護ガイドライン」に関する相談会を開催しました。

3. 放射線看護専門看護師の活動支援

放射線看護高度看護実践者を教育する教育課程（大学院）の修了生のネットワーク構築支援として、放射線看護キャリア開発グループの活動を支援しています。コアメンバーによる 2 カ月に 1 回のオンライン会議の開催のほか、2 回の学習会も開催しました。また、第 12 回学術集会ではグループ活動周知のためのチラシを配布しました。

第 1 回学習会
日時：2024 年 1 月 18 日
テーマ：原子力災害時のリスクコミュニケーションから臨床におけるリスクコミュニケーションへ
講師：吉田浩二氏（長崎大学）
第 2 回学習会
日時：2024 年 2 月 15 日
テーマ：放射線看護 CNS と考えよう　CNS 試験のあれこれ
講師：佐藤裕美子氏（弘前大学医学部附属病院放射線看護専門看護師）

2）編集委員会

≪委員会概要≫

編集委員会は、学会誌の編集と発行を行い、主に学会員皆様の論文投稿から論文掲載までの期間に関わります。また、この一連の作業が円滑に進むように編集システムの環境を整えています。さらに、学会誌に掲載された論文の中から年に 1 回優秀論文賞を選出しています。

≪委員≫
委員長：吉田浩二
副委員長：松成裕子
委　員：大石景子、北宮千秋、佐藤美佳、沼口香織、堀裕子、三森寧子

≪活動内容≫

日本放射線学会誌学会誌 第 11 巻 2 号を 12 月に発刊（オンライン公開）することができました。現在は第 12 巻 1 号（2024 年 6 月発刊予定）の編集作業に取り組んでいます。また、2024 年 2 月 15 日よりオンライン投稿システムをリニューアルしました（HP：https://www.rnsj.jp/journal/）。

本学会誌では、研究論文以外に、放射線看護に関する実践や施設・機関への訪問等、幅広い視点で掲載いたします。(以下、一般社団法人日本放射線看護学会誌 投稿規程より抜粋)

- 実践報告：実践成果を速報する意義が大きく、放射線看護学の発展に寄与すると認められるもの。
- レター：放射線看護に関わる施設・機関への訪問や放射線看護実践の経験などで、放射線看護学に関与するもの。

これからも、皆様の研究成果や情報、放射線看護の実践を一早く発信し、社会に貢献できる学会誌を目指していきます。引き続き、どうぞよろしくお願い致します。

3）広報・渉外委員会

≪委員会概要≫

広報・渉外委員会は、日本放射線看護学会の活動を会員の皆様や社会にお知らせし、関連する様々な学術団体等と連携・協働をはかる活動を行っております。

≪委員≫

委員長：作田裕美

副委員長：堀田昇吾

委 員：大串晃弘、浅田裕美

≪活動報告≫

2023 年度は下記の活動を行いました。

(1) 広報誌（ニュースレター）の発行（年 2 回発行）

2023 年 9 月と 2024 年 3 月に発行いたしました。

9 月発行のトピックスでは、前理事長で監事の草間朋子先生に「第 49 回フローレンス・ナイチンゲール記章 （FNM）を受賞して」と題し、ご執筆いただきました。また、3 月発行の本号（第 13 号）では、理事の堀田昇吾先生に NuHAT のご紹介をいただいております。

(2) 学会ホームページの管理・更新

関連団体からの研修案内や研究公募等についてトップページの「お知らせ」にいち早く情報を掲載いたしました。ガイドライン・刊行物ページの更新、英語版ホームページについても都度更新致しました。

(3) 日本放射線技術学会との協定にそった学術協力の推進

①学術集会企画

第 12 回学術集会において、日本放射線技術学会との共同企画を開催いたしました。沢山の方々にご参加いただき、活発なディスカッションから現状の可視化とともに今後の課題が浮かび上がりました。その課題を解決するために、今後も両学会で協力して会員に貢献できるよう努力してまいります。

〜〜〜第 12 回学術集会共同企画〜〜〜

日時：2023 年 9 月 10 日（日）11：00〜12：00

テーマ：放射線防護・安全教育を効果的・効率的に推進する上で、影響するであろう事は何だろう？

登壇者：

【公益社団法人日本放射線技術学会】

五十嵐隆元先生　国際医療福祉大学成田病院

「医療現場での放射線防護・安全教育における課題」

宮島隆一先生　国立病院機構鹿児島医療センター

「被ばく管理を行っている診療放射線技師の立場から」

【一般社団法人日本放射線看護学会】

兵藤悦子先生　独立行政法人国立病院機構相模原病院

「放射線診療や治療に関わる看護師教育の構築」

増島ゆかり先生　日本医科大学武蔵小杉病院

「看護師への放射線防護・安全教育の現状と推進に向けて」

座長：濱田圭介先生　国立病院機構九州がんセンター（日本放射線技術学会）

堀田昇吾先生　東京医療保健大学（日本放射線看護学会）

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

②共同研究

本学会と日本放射線技術学会の会員に貢献する共同研究を進めております。2024 年 6 月 20 日には、日本放射線技術学会雑誌に「病院における放射線防護教育の実態調査」が掲載されます。

4）国際交流委員会

≪委員会概要≫

本委員会は 2015 年に発足し、放射線看護学に関する国内外の動向の把握と学会員への情報提供、国内外の関連学術団体との連絡・協力、本学会活動への国際的な情報発信の支援等の活動を行っています。

≪委員≫

委員長：山口拓允
副委員長：後藤あや
委 員：杉浦紳之、生田優子、古谷一隆

≪2023 年度の活動≫

（1）ICRP2023 7th International Symposium on the System of Radiological Protection で発表を行った 4 演題の支援を行いました。

（2）2024 年 9 月に開催される第 13 回日本放射線看護学会学術集会のテーマ英訳を行いました。

《2024 年度の活動予定》

・放射線看護に関する英語論文の紹介（日本保健物理学会との協働）

国際交流委員会では、最新の学術的知見を会員の皆様に紹介すべく、学会ホームページに紹介記事を掲載するよう準備を進めています。国際交流委員会委員において、放射線看護に関する論文の要点をまとめて記事にして皆様にご紹介します（数は多くならないと思いますが）。さらには、このほど、日本保健物理学会との学会連携強化の一環として、相互の会員資格でそれぞれの学会行事に参加できることが両学会理事会で承認されました。このことを受けて、日本保健物理学会のニュースレターで配信されている論文紹介記事のうち、特に放射線看護に関連するような論文をピックアップし、こちらも皆様に紹介していく計画でいます。会員各位の研究活動の促進に少しでもお役に立てば幸いです。（杉浦紳之）

・英語論文の書き方に関する特別企画の開催

第 13 回学術集会の中で、英語論文の執筆に関する特別企画を開催する予定にしています。修士及び博士課程の学生だけではなく、多くの看護研究に従事する方の役立つ情報を発信できればと考えて企画をしております。

《新委員の紹介》

株式会社千代田テクノルの古谷一隆と申します。国際交流委員の一員に加えていただきまして誠にありがとうございます。私は普段、放射線業務従事者の被ばく管理に使用されるガラスバッジの技術的サポート、技術的課題の改善等を担当し、他に放射線関連学会での情報収集などを行っております。前職は都内の病院で診療放射線技師として勤務し、一般撮影・CT・MRI・胃透視を担当していました。そのころ（10 年以上前）から比べますと 2020 年 4 月に診療用放射線に係る安全管理体制について医療法施行規則の一部を改正する省令が施行され、撮影線量が低減されてきています。また 2021 年 4 月に放射線関連法規が一斉に改正・施行され、眼の水晶体の線量限度が引き下げられました。それにより水晶体被ばくは大幅な低減傾向にあります。被ばく防護に有利な状況ができつつある中、本学会の国際的な活動のため精一杯力を尽くしたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。（古谷一隆）

4. 第 13 回の学術集会のご案内

第 13 回学術集会 会長
鹿児島大学医学部保健学科
兼任地域防災教育センター
松成裕子

この度、第 13 回学術集会を以下のように開催します。

《学術集会の概要》

1. 会期　令和 6 年 9 月 14 日(土)、15 日(日)
2. 会場　鹿児島大学稲盛会館キミ＆ケサメモリアルホール（郡元キャンパス）
3. 学術集会のテーマ　「放射線看護の黎明と創設期から発展と進化に挑む」
4. 演題募集期間　令和 6 年 4 月 8 日（月）～7 月 1 日（月）
5. 事前参加登録期間　令和 6 年 4 月 8 日(月)～7 月 31 日（水）
6. プログラム

＜第一日目＞

【プロローグ】「放射線看護の教育に関わって」演者　松成　裕子

【鼎談】「放射線看護の未来」演者　草間　朋子先生　山下俊一先生　吉田浩二先生

【基調講演】「がん看護 CNS として役割の遂行、拡大を図った経験から放射線看護専門看護師への期待」 演者 三浦　浅子先生

【シンポジウム】「がん治療の最前線・IVR・被ばく医療から放射線専門看護師に期待すること」シンポジスト 伊藤宗一朗先生（鹿児島大学病院放射線診療センター） 入來泰久先生（鹿児島大学病院医療器材管理部） 松田尚樹先生（長崎大学原爆後障害医療研究所）

＜第二日目＞

【シンポジウム】「放射線看護におけるコラボレーションの構築」

シンポジスト　野口純子氏（インターベンションエキスパートナース）　上澤紀子氏（がん放射線治療認定看護師）　診療放射線技師（未定）

【日本放射線看護学会・日本放射線技術学会共同企画セミナー】

【ランチョンセミナー】千代田テクノル

＜鹿児島大学地域防災教育研修センター共催＞

【ワークショップ　市民講座】

「講演：放射線リスクコミュニケーション」

「演習 放射線リスクコミュニケーション事例検討」

【学会企画】【交流集会】【演題発表（口演・示説）】【企業展示】

7. ホームページ https://rnsj13.secand.net/
8. 大会ポスター

本大会で、皆様とともに、放射線看護の未来に向けての新たな道を切り開く機会を持てるように準備を進めておりますので、皆様のご参加を心よりお待ちいたしております。